

ふるさと 資料紹介

＝⑦②＝

史料と地名からみた 地区の歴史27

三和(一)

甘屋、川浦の名が歴史上初めて現れるのは、弘治三年（一五五七年）です。上甘屋の白山神社の棟札に「大日本国濃州路賀茂郡揖深之内津々野村」と記されています。この「津々野」が現在の「甘屋」です。

そのころ、このあたりは「揖深」（現在の伊深町を中心とする広い地域で、現在の武儀郡の一部も入っていました）に含まれていたことを示しています。その後、人々のつながりや自然条件から次第に「生活単位としての村」が作られていったと考



白山神社の棟札

えられます。

文禄三年（一五九四年）の山年貢の証文に、「甘屋」「川浦」が出てきます。このころになると、両村が独立した村として扱われるようになります。この史料は、甘屋、川浦両村が山札をもって山年貢に代えることを許されたものです。

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございます。

（平成九年五月分）

- 第二次大戦時の歴史資料一点
（加納絜さん／下米田町）
- 考古資料（古代かわら片ほか）
約百点

（近藤稔さん／加茂川町）

計画中の博物館建設のため、現在いろいろな資料を収集しています。文化課（文化会館内／**■**内四〇八）まで情報をお寄せください。